



へだ温泉深海魚プロジェクト
中島寿之さん

「へだ温泉」の「新鮮魚」の看板に写っています。これが次のイベントへの原動力になります」と言います。

「この方法なら、多くの人が戸田を訪れるし、撮影会の様子や戸田の思い出などをフェイスブックやツイッターなどを通じて発信してもらいたい」と中島さんは考えたのです。9月に行われた3回目の撮影会も、参加者の募集開始からあつという間に定員に達してしまつほどの盛況でした。見たこともない魚を夢中になって写真を撮る参加者たち。実施したアンケートでは9割以上の人が「また参加してみたい」との声がありました。プロジェクトのメンバーも「参加者の声を聞いて、やってよかつたなとやりがいを感じます。これが次のイベントへの原動力になります」と言います。

地元の人も 深海魚の価値を再発見
「地元ではあたりまえの存在だった深海魚ですが、イベントを通じて、その価値を再発見することに繋がりました。12月には、深海魚シンポジウムの開催も計画していますし、これからも深海魚を使った企画を考えていきたいです。地域の宝である深海魚をもっとPRしたいですね」と中島さん。
住民を巻き込み、地域を盛り上げる。深海魚を使ったまちおこしがこのように始まっています。

へだ温泉深海魚プロジェクト 深海魚撮影会
平成 27年 9月 27日(日)、戸田港にて開催

写真解説 ①深海魚の底引き網漁は早朝3時頃に出港する②子どもより大きなタカアシガニも登場③カメラを持って不思議な魚たちを撮影④スタッフから魚について教えてもらう参加者⑤深海魚の詰め放題も同時開催⑥子どもは怖がらずに魚をさわります⑦深海魚を持つ子どもを撮影するカメラマンたち⑧生きたサメにふれることもできました⑨アンコウ⑩グホウ⑪キホウボウ⑫オオホモロ



未来のために 資源保護に 取り組んでいます
毎年、地元小学生や観光客も参加してタカアシガニの放流を行っています。沼津市商工会が中心に取り組むこの活動は、タカアシガニの生態の解明や資源保護を目指したもので、30年近くも続いています。

少し怖かったけど楽しかった!
櫻井香実さん(右)、香穂里さん(左) (沼津市大岡)
少し怖かったけど、サメを実際に持てて面白かった(香実さん)。初めて見る深海魚にさわって、とても楽しかった(香穂里さん)。

たぶん世界初! ?
見たこともない生き物に驚きの声! 深海魚撮影会

古くから底引き網漁が盛んな戸田地区では、毎年9月の解禁を合図に、深海魚の水揚げが始まります。タカアシガニやトロボツチなど、戸田の旅館や食堂で使われる一部のを除いては、捨てられてしまつていた深海魚。近年の深海魚ブームを感じた人たちから、深海魚を観光資源として活用できないかという声上がり、今年1月に戸田観光協会内にへだ温泉深海魚プロジェクトが立ち上がりました。このプロジェクトは、戸田漁協や底引き網組合の漁師さん、NPOや沼津市商工会等が協力し、戸田をあげて取り組んでいます。プロジェクトのリーダーを務める中島さんは「最初に考えたのは深海魚カレンダーの製作です。なぜなら、カレンダーはプレゼントとしても使えるし、部屋に飾ればそれを見るたびに戸田を思い出しますよね。そして



初めて見る魚に大興奮!
高梨佑真さん(愛知県名古屋市)
魚が大好きで、インターネットで調べていたらこのイベントを知り、愛知から来ました。図鑑で見たことがあった、珍しいワグチツノサメがいて、とても嬉しかったです。